

友だちとの話し合いで変容する瞬間

先日、4年生の授業研修を行いました。単元は算数の「概数とその計算」

2日間の入所者数はあわせて約何万何千人といえよいですか

曜日	入場者数(人)
土	27535
日	41071

子どもたちは家庭で予習をして授業に臨んでいます。担任は子どもたちに家でやってみて「ここからはわからない」なども声もあって当然と話をして取り組んでくるように指示していますので、子どもたちは自分の考えを持った状態、またこの続きをどうすればいいか知りたいという構えができて授業をスタートしています。3つの考え方が出ました。

$$A : 30000 + 40000 = 70000$$

答え 70000 人

$$B : 27535 + 41071 = 68606$$

答え 69000 人

$$C : 28000 + 41000 = 69000$$

答え 69000 人



私が見取っていた子は最初Aの考え方をしてきていましたが、左の写真のようなグループでの協議の中で考えがAからBへと変わっていき最終的にはCの考え方にたどり着いていました。

そうした考え方が変わる変容の瞬間に何があったか、あるグループの話し合いの様子です。

Aの考えの子がBへと変容する瞬間

○「間違っていると思うけど40000と30000にして何万人で考えていた」

△「そうか。○○さんは何万にして考えていたんやな」

○「そう、どうやったらいいか」わからなくて、万でやってみた」

□「ぼくは、問題に何万何千といえればいいですかと書いてあるからCと思った」

◇「私はBの考えで、Cは四捨五入が2回しないとイケないけど、Bは四捨五入が1回ですむから」

こうした話し合いでAと考えていた子(○)は、最後の四捨五入が1回で済むと意見に共感し、Bへと変容していきました。



全体の話し合いで多くの子がBかCで悩んでいましたが、次に引き算をしてみるとCの方が簡単にできることに気づき、みんな納得して授業を終えていました。



参観していた教員それぞれが特定の子を決め、その子の考えがどのように変容したかや深まったり広がったりしたのかを観ていくとその子を通した授業の在り方がわかります。

指導主事の方からは、子どもたちの課題に向かう姿や対話を通した変容への先生の工夫や子どもたちの成長を指導助言頂きました。ありがとうございました。

